



さと なか ま ち こ  
**里中 満智子** さん

マンガ家  
大阪芸術大学キャラクター造形学科学科長  
(公財)日本漫画家協会理事長

- 1948年 1月24日大阪市に生まれる
- 1964年 高校2年生の時に「ピアの肖像」で第1回講談社新人漫画賞を受賞し、プロデビュー。
- 1974年 「あした輝く」「娘が行く!」で講談社出版文化賞を受賞
- 1982年 「狩人の星座」講談社漫画賞を受賞
- 2006年 全作品及び文化活動に対して文部科学大臣賞を受賞
- 2010年 文化庁長官表彰受賞
- 2013年 2013年度「マンガ古典文学古事記」古事記出版大賞太安万侶賞受賞
- 2014年 外務大臣表彰受賞
- 2018年 文化庁創立50周年記念表彰受賞

を感じていました。だって、女性って本当は強いじゃないですか(笑)。

少女漫画は恋愛ものが王道ですが、「愛されて幸せ」「男性に幸せにしてみよう」といった話がどうしても好きになれない。編集の方には「読者はけなげに耐えている女の子に同情するんだよ、ここで泣かせなきゃ」とよく注意されました。「恋はいつと従うそぶりを見せつつ」「それは男性が好きなら女の子像じゃないの?」と、心の中で反論してました。

だから、そういうところは最小限にして(笑)、私の描く主人公は強い女性。自分で決断をくだし、自ら道を選ぶ女の子を描き続けてきました。本当は力があるんだから、誰かに幸せにしてみようって人生なんてもったいない。「自分の強さを信じる」と思い描いてきたら、次第に読者に支持されるようになり、そのうち思い通りに描けるようになりました。

**自分で選んだ生き方で**

戦後の男女平等と言われる中で育ったものの、実際には男の子は男らしく、女の子は女らしくという価値観が根強く残っていた時代。私は、女は損だと思っていたんです。すべ、「女のくせに」と言われるから、で

も「男のくせに」と言われるのは男性も一緒。むしろ、泣いてはいけない、肩肘張って頑張ることを求められる男性の方がしんどいのかも、と思うようになりました。女の子はね、本当は強くてしぶといんですよ。しかも、場面場面でいくらでもしおらしいぶりができますから(笑)。

かつては台所に立つのは女性という思い込みもありましたが、最近は料理好きを公言する男性も増えていきます。マンガ家仲間が集まる時も、張り切って料理をこしらえるのは男性陣。みんなに「おいしい!次は何を作ってくれるの?」と言われるとモチベーションが上がるみたい(笑)。

性別は選んで生まれてくることではできませんが、生き方は選べます。「自分で選んだ」と自覚すると、人はすごい力を発揮することができるんです。

マンガ家は、10代の私が選んで歩き続けてきた道。今は大学講師や日本漫画家協会の仕事などで、すべてのパワーを漫画に注げる状況ではありませんが、何とか体力を保ちながら、いつまでも描き続けたいと思っています。漫画の世界は性別に関係なく、読者にとって作品が面白いかどうかという実クリアでスリリングな世界なので、意欲のある若い人たちにもどんどん入ってきてほしいです。

